

## ■教育課程の基本構成

本学のカリキュラムは、看護学の概念枠組みとして、「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの基本概念を中心に構成されており、CPはこの基本概念と対応している。

「人間」「環境」「健康」の3つの理解についてはCP1の教養科目、専門基礎科目に配置されている授業科目によって基盤となる知識を学ぶ。

基本概念にある「看護」は、学んだ「人間」「環境」「健康」の知識を実際の看護ケアに応用し、臨床の場に適用できるよう「看護の基本」「看護の展開」「看護の実践」「看護の探究」を段階的に学習できるように構成している。本学のカリキュラムはCP3に記載の通り、態度の育成も踏まえたカリキュラム構成となっている。態度の育成は4年間の大学教育全体を通じて育まれる側面があり、学生個々の資質によってその成長するスピードや時期も異なっており、特定の教育内容によって必ず身につくものではないが、看護職者の資質として極めて重要な要素であるため、本学ではCP3に態度の育成を記載している。

具体的にはCP3に包含される科目を通して看護職者の態度として、最も重要な要素である対象者に関心を寄せ、理解しようとする姿勢を養うことが可能となる。

また、ルーブリックを用い、自己の課題を見出し、省察を加えながら能力、態度を段階的に評価する。

「看護の基本」はCP2に対応しており、CP1の教養科目、専門基礎科目で学んだ「人間」「環境」「健康」の3つの概念と「看護」がどのように相互作用し、保健医療・福祉システムの中で、対象者のより良い健康状態を引き出すための看護の役割を学ぶ。

「看護の展開・実践」はCP3と対応しており、今まで学んだ知識・スキルを、「インプット」「アウトプット」を繰り返し、省察を通じて統合することで、学んだ内容を臨床現場で活用し、実践能力を高めるための科目を配置している。また、CP3のうち「看護の展開」に係るCPをCP3-1、「看護の実践」に係る科目をCP3-2として対応させている。

「看護の展開」は「看護の基本」で学んだ内容を母性、小児、精神、在宅、クリティカルケア・周術期・慢性期、老年、エンドオブライフケア等の領域や対象者のステージごとにどのように展開されるのかを具体的な知識・スキルと共に学ぶ。更に、シミュレーション教育を行い、「インプット」「アウトプット」を繰り返し、省察を通じて統合することで、学んだ内容を臨床現場でも活用できるよう実践能力を高め、OSCEでルーブリック評価を行い、臨地実習が中心となる「看護の実践」へ繋がるための教育を行う。

「看護の実践」は、CP3-2と対応しており、学内での演習内容を基に実際の対象者に対して看護ケアを提供し、臨床現場での経験を軸に省察を行いながら、シミュレーション教育で統合された知識・スキル・態度を臨床現場の経験を経て、さらに高める。また、実践能力を発展させるため生涯学び続ける姿勢を養う。

「看護の探究」は、CP4と対応しており、臨床現場での実習等を経て、自身がどのような看護職者となって社会に貢献していくのか、社会が求める看護について「災害看護」「国際看護」「看護職のキャリア発達Ⅰ・Ⅱ」「統合実習」「プロフェッショナル実習」等の授業を通じて学び、考える。良い実践家（グッドプラクティス）をキャリアモデルとしてシャドウイング実習を行い、自律した看護職者となるよう継続的に研鑽する姿勢を育み、キャリアを主体的に発達させるために必要な態度を育成する。